

## 研究交流計画の目標・概要

**【研究交流目標】** 交流期間（最長3年間）を通じて自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成における目標を記入してください。実施計画の基本となります。

本研究は日本語教育の今後の発展が期待される中央アジアのウズベキスタン、カザフスタン、東南アジアのベトナム、アフリカのエジプトの日本語教育研究組織と連携して、EdTech としての日本語教育方法の開発を目標に、日本語教育スタンダードや教材、それを活用できる人材育成に取り組むものである。社会的にも求められる新たな日本語人材の視座を共通認識とすることで、各地域の抱える将来的課題が、時間の推移や社会制度の変化で、どの地域でも解決すべき課題であり得ることから、共同して日本語教育の学習内容、学習方法を考え、学習者が自律的に学ぶ仕組みを学習者に提供し、能率的な学習方法を開発する。

### ＜課題共有：必要な日本語スタンダードの検討と記述＞

日本の国内外で、日本語学習者や日本語学校が増加している一方、学習者に合った教育内容・教育方法開発が課題で、学習者の目的に合わせた日本語の記述が急務である。そのために、Council of Europe の「Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment (CEFR)」や、国際交流基金の JF 日本語教育スタンダード、各種検定試験、各地の教育目的を検証しながら、必要とされる日本語教育の学習項目を記述する。

### ＜対応策検討：日本語用例集の作成＞

スタンダードだけでは、どのような日本語表現が必要であるか、経験の浅い日本語教師にはとまどうことも多く、EdTech としてのテクノロジーを活用した教育効果を追求し、世界の様々な教育機関で利用しやすい教育方法を考え、スタンダードの記述を基に、学習者の目的に合わせて選択できる内容別・レベル別の日本語用例集（対訳付き）を作成する。

### ＜次世代人材育成：各地域の指導的若手日本語教育研究・実践者の育成＞

質の高い日本語教師が絶対的に不足している。日本語教師に必要な言語や教育方法に関する知識だけでなく、現代日本語に敏感な教師を養成すべく、スタンダードと日本語用例集についての共同製作を積極的に行い、日本語教育管理システムの理解の促進を促すことで、日本語教育を俯瞰でき、指導的立場となる若手研究者の育成を図る。

**【研究交流計画の概要】** 我が国と交流相手国の拠点同士との協力関係に基づく多国間交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせる実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

- ① 各国の拠点大学研究者とは、現在まで日本語教育の連携に関わるシンポジウムや、共同研究を行い、研究内容・研究の必要性の認識を進めてきた。また、今までウズベキスタンからは修士5名、カザフスタンから修士1名、博士1名、ベトナムからは修士2名、博士1名、エジプトからは修士1名、博士1名に加えて、JSPSの短期受入プログラムを利用して、関係強化と相手国理解に努めてきた。課題として、現代社会が求める日本語人材に対応し切れていない日本語教育の現状がある。そこで、新たな日本語教育スタンダード作成調査研究として、ASEANのベトナム、民営化が進む中央アジア、今後の日本語教育の大きな発展が期待されるアフリカで、各国、各地域の日本語教育の現状と目標（学習者のニーズ、学習スタイル、社会的要請など）の関係について共通認識をもつ。その上で各国の社会的課題解決のための日本語教育のスタンダードを議論し、特性を分析した上で、各国の教育内容、目標から、既存のスタンダードを修正、補完し、こうした教材を効率的に行う教育方法を開発する研究を行う。
- ② 中央アジアでは2006年来毎年、ベトナムでは2017年から3度シンポジウムを開催しており、実施体制に問題はない。セミナー共通のテーマとして、コミュニケーションのための日本語教育研究を考え、拠点機関を中心として、各国周辺地域の日本語学習者が今後必要とするであろう状況を抽出したスタンダード作成、およびスタンダードに基づいた日本語用例集のための集会を行う。こうした教材をいかに効率的に利用できるかを、EdTechの観点から扱う。
- ③ 研究交流としては、各地域の課題解決、人材開発に向けたフィールドワーク、アクションリサーチを行い、日本語コミュニケーションを行うための効率的な教育方法開発、および本学が中心となって進めている、拠点機関との連携強化のための教育管理システム開発に向けて、言語的側面、言語教育的側面から若手研究者交流を図る。

[実施体制概念図]  
最終目的

# 日本語教育国際連携拠点の形成

